

SDNET-300 先見情報No.46

地域の抱える課題と地域活性化

『地域活性化の切り札－「地域資源」の活用』

●地域活性化の切り札－「地域資源」の活用－

我が国の経済・社会構造が変化する中、地域経済は特に厳しい。地域が抱える課題は、人口減少・少子高齢化、商店街・繁華街の衰退である。これらの課題を解決し、地域活性化の切り札となり得るのは「地域資源」である。具体的には、「農水産品」や「観光資源」である。

地方経済は極めて厳しい状況にある。そのような厳しい環境の中ではあるが、「地域活性化の切り札」として、元々その地域にある「地域資源」の活用を提言したい。

地域資源とは、地域に存在する特有の経営資源として、特産品や伝統的に承継された製法、工場産業の集積による技術の蓄積、自然や歴史遺産といった文化財などが挙げられる。中小企業地域産業資源活用促進法に基づき、地域資源として各都道府県が指定している件数は、2014年2月末時点で、13,780件となっているなど、どの地域にも特有の名産品や、地域のシンボルとなる自然や文化財が存在している。

■第1図 地域活性化の切り札となる地域資源

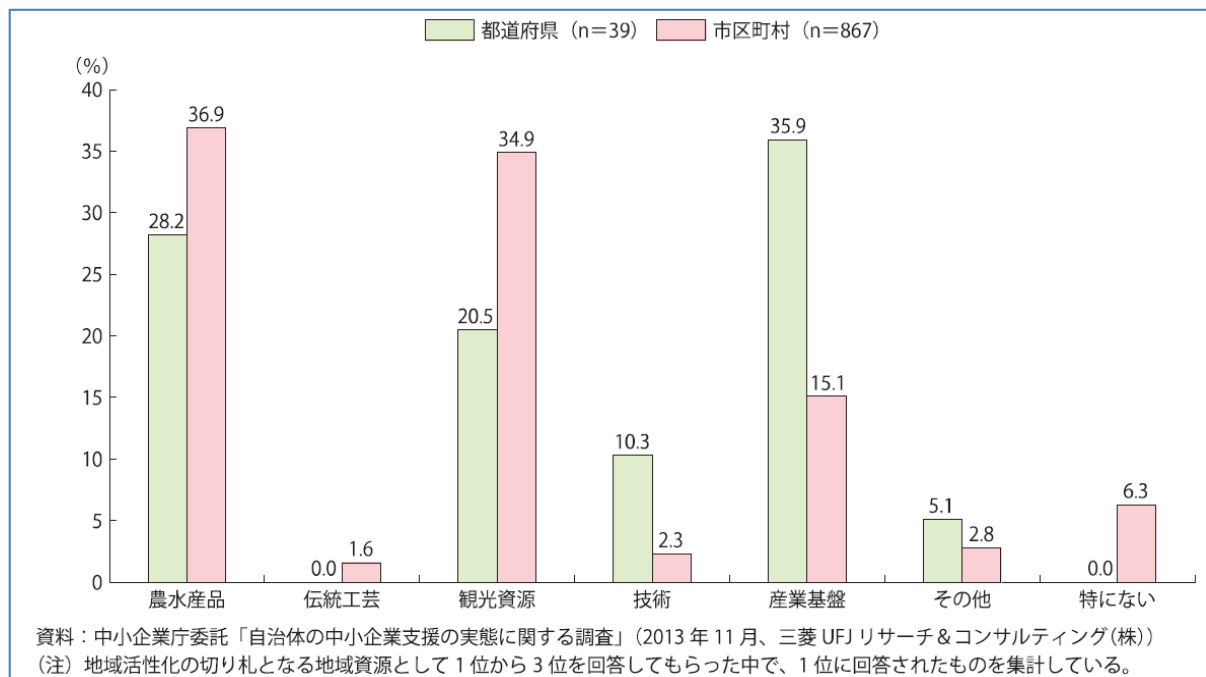


図1は、地域活性化の切り札となる地域資源を聞いたものである。これを見ると、都道府県では、「産業基盤」と回答した割合が高く、市区町村では「農水産品」、「観光資源」と回答した割合が多い。また、「地域活性化の切り札」となる地域資源が「特にない」と回答した都道府県はなく、

市区町村でも1割未満であるなど、ほとんどの自治体では、「地域活性化の切り札」となりうる地域資源はあると認識していることが分かる。

●地域活性化の切り札となる地域資源の活用状況

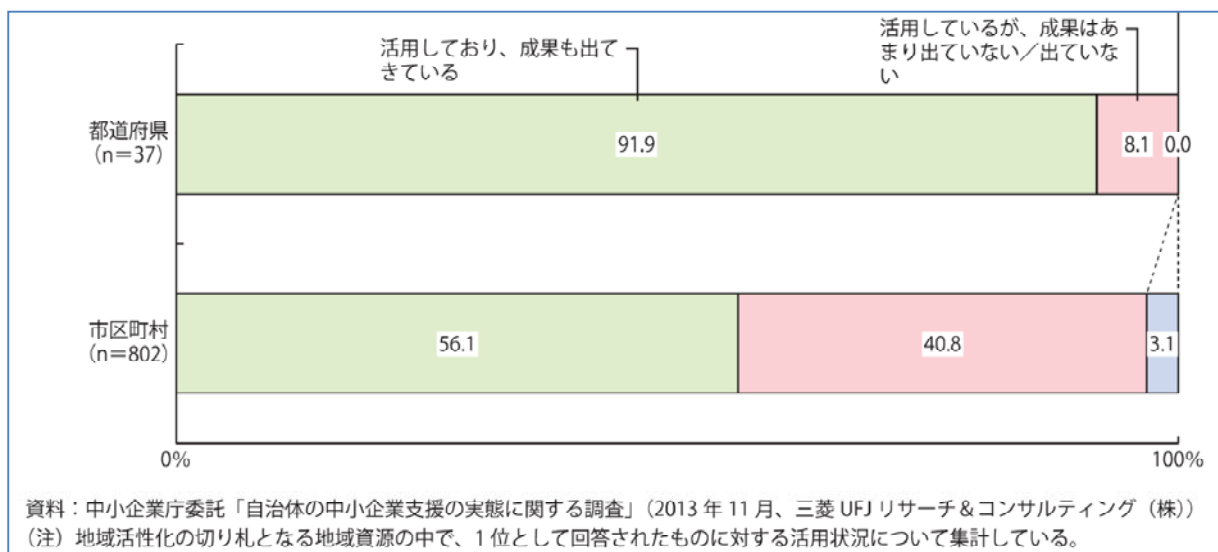
それでは、地域資源の活用状況はどうだろうか。

第2図は、「地域活性化の切り札」となり得る地域資源の活用状況を示したものである。都道府県では、地域資源を活用しており、成果も出てきていると多くの都道府県が回答している。

一方で、市区町村では、4割以上の自治体が地域資源を有効活用できておらず、「地域活性化の切り札」となり得る地域資源はあるものの、十分に有効活用できていないことが明らかとなった。

第1図で見たように、市区町村は「農水産品」や「観光資源」を地域活性化の切り札として認識している割合が高い。今後については、そのような「農水産品」や「観光資源」の活用が地域活性化のためには必要となる。したがって、市区町村と中小企業・小規模事業者が連携して地域資源の活用に取り組んでいくことが必要であると考えられる。

■第2図 地域活性化の切り札となる地域資源の活用状況



以上、地域の抱える、「人口減少」、「少子高齢化」、「商店街・繁華街の衰退」などの課題を解決する切り札としての「地域資源」について見てきた。

「人口減少」、「少子高齢化」、「商店街・繁華街の衰退」などに悩む地域であっても、若者を誘致するような取り組みや商店街の活性化を目指して独自の取り組みを行うことで、地域を活性化させることは可能である。また、観光資源等の地域資源をうまく活用することも、地域活性化の「鍵」といえる。